

# ゴンちゃん、もっとみんなとあそびたいゴン！

絵本『そむらゴンちゃん！』による獅子舞後継者不足への挑戦



本村 愛澄(もとむら あずみ)  
奈良県立添上高等学校 3年

石原 さくら(いしはら さくら)  
奈良県立添上高等学校 3年

## 活動概要

### 活動の内容

- ・2023年度作成した絵本『そむらゴンちゃん！』に、2024年7月から加筆修正し、2024年8月に16ページの絵本として製本。
- ・2024年10月3日、国立曽爾青少年自然の家に絵本を寄贈。
- ・2024年10月17日、高校近隣に位置する樺本幼稚園に絵本を寄贈。4歳児クラスに絵本の読み聞かせを行い、登場キャラクターの塗り絵をプレゼント。園の先生に簡単なアンケートで感想を伺った。
- ・2024年10月25日、曽爾村役場にて絵本贈呈式。曽爾村の芝田村長の前で読み聞かせ実演を行い、10冊寄贈。村を通じて曽爾村の保育所、小中学校、図書館に配布。

### 活動の特徴(新規性・発展性)

- ・曽爾村の郷土芸能である『曽爾の獅子舞』の実際の演目を原作にしており、絵本を読んだ子どもたちの興味が獅子舞への興味に直接的に結びつくものを絵本で残すことができた。
- ・絵本を製本するにあたり、解説やあとがきを追加し、制作の意図が伝わるようにした。また、ページ割りの再構成や、絵の追加・修正を行った。そして、子どもにとって難しい言葉遣いの修正など、子どもへの読み聞かせを意識したつくりにした。

### 活動の成果

『曽爾の獅子舞』に子どもが興味をもつきっかけになる絵本を制作した。樺本幼稚園での読み聞かせの際に、子どもたちの反応や先生方に記入していただいたアンケートからは、曽爾村や獅子舞のことを知らない子どもたちが絵本を楽しむ様子が見受けられた。また、贈呈式の際には村の方々にも喜んでいただいた。『曽爾の獅子舞』を子どもの世代に伝え、将来の獅子舞の担い手の育成につながる絵本を残すことができた。

## 課題の設定と意図

私たちは、『曽爾の獅子舞』の後継者不足を課題とした。曽爾村の郷土芸能として江戸時代から続いている『曽爾の獅子舞』は、奈良県の無形民俗文化財に指定されており、現在3つの奉舞会が10月の祭りで舞を門僕神社に奉納している。舞はすべて口伝で継承されており、舞を通じて村で暮らす人々のつながりを維持するために機能してきた。しかし、私たちは獅子舞に取り組んでおられる伊賀見奉舞会の木治さんのお話を伺うまで『曽爾の獅子舞』の存在すら知らなかった。話を伺っていく中で、獅子舞そのものの面白さを感じたり、獅子舞が人のつながりを維持してきたことを学んだりすると同時に、獅子舞が深刻な後継者問題を抱えていることを知った。また、獅子舞に興味を持ち、村に訪れる人自体はいるものの、そこから担い手になろうとする人はなかなか現れないという現状も伺った。そこで、私たちはただ単に『曽爾の獅子舞』の宣伝や周知をするだけでなく、曽爾村で獅子舞の後継者を担いたいと思う人が継続的に現れるような取り組みを起すことが大切だと思い、高校生である私たちに何ができるのか考えたいと思った。

## 課題解決のための仮説と計画

獅子舞の後継者を増やすには、村内の子どもたちだけでなく、曽爾村の外で暮らす子どもたちが獅子舞をやってみたいと思う状況をつくるのが重要だと仮説を設定した。そのため、子どもたちに『曽爾の獅子舞』を知ってもらい、興味を持ってもらう必要がある。しかし、実際の獅子舞は子どもにとって見た目や動きが怖く感じられると思い、いきなり本物を見せるのではなく、その一歩手前のきっかけを用意したいと考えた。そこで、実際に行われている『曽爾の獅子舞』の演目から、伊賀見奉舞会の『道化獅子』を原作に、子ども向けの絵本を作成する計画を立てた。『道化獅子』は、伊賀見奉舞会の木治さんによると、獅子も天狗も人間も皆仲間になれるというメッセージが込められている。私たちは、子どもたちに獅子舞を紹介するには『道化獅子』がぴったりな演目であると感じ、絵本の原作に採用した。獅子舞や天狗は、子どもが怖くないようにデフォルメしたキャラクターを作成し、セリフや語尾にかわいらしさのある特徴をつけた。一方、獅子舞の衣装の柄は実物を忠実に再現するなど、本物とかけ離れない工夫をした。また、絵本は子どもたちへの読み聞かせを想定し、できるだけ平易な言葉を用いてストーリーがわかりやすくなるようにすること、スキが有名な曽爾村のイメージから秋らしい色合いのあたたかみのある絵にすることなどを心がけることにした。そして、完成した絵本を村の内外の幼稚園、保育園、小学校、国立曽爾青少年自然の家など、子どもたちが手に取りやすい場所に寄贈し、読み聞かせの活動を行っていくことで、子どもたちに『曽爾の獅子舞』への興味を持ってもらえるようにしたいと考えた。

## 活動で工夫できたこと

口伝で曽爾村に伝わっている郷土芸能である『曽爾の獅子舞』について、村の外の子どもにも興味をもってもらうために、絵本という形が残るものを作ることができた。これによって、一度きりの活動ではなく、絵本を受け継いでもらうことでこれから先も子どもが獅子舞に触れるきっかけを作り続けることができる。子どもたちを対象に考えたときに、SNSや動画ではなく、子どもたちにとって身近で親しみやすい絵本を用いたところが、工夫できた点である。

また、この活動は、添上高校人文探究コース2期生として、クラスで取り組んできた活動である。OR合宿では、曽爾村が抱える地域課題を探究する活動として、『伝統』『特産』『行政』『観光』の4つのテーマに班分けして探究学習を行い、成果を発表した。その活動をもとに、クラス全体の取り組みとして、『曽爾の獅子舞』の後継者不足を解消するために絵本を作る活動を行うことになった。そして、絵本を作成するにあたって、実際に祭りで獅子舞の奉納を見学し、それをクラスメイトに共有した人や、特技の絵を活かして作画を担当した人、保育士になりたいという夢から読み聞かせを練習した人など、それぞれが自分の強みや関心を活かせる役割を考え、一つの目標に向かって行動することができた。



絵本読み聞かせに向けた練習の様子



絵本作画の様子

本村 愛澄

私が今回の活動を通して考えたこと、学んだことは絵本を描くことの難しさについてである。私は今回の活動を通して、絵本の作画を中心に担当した。絵本を描くのは初めてだったが、イラストを描くことが得意だったので、自信を持って引き受けた。絵を描くうえで頑張ったことは、色の使い方である。全体の色味は曾爾村のススキのイメージから、秋らしさを意識しながら濃い色や暖色をメインにし、明るい印象を与えられるようにした。一方、背景に不穏な様子や怒りのシーンには黒や紫のような暗い色を使い、喜びや楽しさを表現するシーンにはピンクや薄黄色のような明るい色を使うことで、その場の雰囲気表現できた。キャラクターの表情だけに頼らず、絵本らしい表現ができたと思う。

しかし、絵本の制作には想定していなかった難しさがあった。一度できあがった絵本『そむらゴンちゃん！』を製本するにあたって、文や絵をもう一度すべて見直すことになった。その中で、絵本のページ数の関係で当初より1ページ増やす必要が生まれ、新しく1ページ分の絵を描いた。少し時間が空いてしまったため、私自身の絵柄が変わってしまい、全体を通して絵本を見たときに違和感が出てしまった。私は、以前の絵柄に寄せて絵を描くことに苦労した。また、私は今回の作画をすべてiPadで行ったので、紙の上でも綺麗に見えるかとても不安だった。デジタル絵を印刷すると、印刷の色の濃淡がうまく出せない、薄い色が発色しにくい、色や線が潰れやすいといった問題がしばしば起こる。しかし、印刷されたものは綺麗に発色し、なんとか絵本が完成した。このように、必要な作業が決まった状態からでも、製本され完成するまでには考えなければならぬことが多くあった。

製本された絵本をあらためて読んでみると、今まで気づけなかった問題も見えてきた。私がまず気になったのは、構図である。同じような構図のページが多くなってしまい、ページをめくってもあまり変化がないシーンが多い。昨年度の動画のようなキャラクターの一枚絵では考慮する必要がなかったことだったので、絵で状況を伝えることの難しさを感じた。キャラクターの動きやポーズをもっと豊富にして、伝わりやすくなる表現の仕方を考えたい。他にも、線が太くまとまりがないように見える部分があったり、色の使い方にもあとから思いついたことがあったりと、反省点は多くある。

私は、将来イラストレーターになりたいと考えており、今回の活動を通して得たさまざまな気づきによって、大きく成長できたと感じている。特に、私がかつと得意としていた一枚絵のイラストと絵本では、同じ絵を描くという作業でも、大きな違いがあることがわかった。一枚絵は、その一枚だけでストーリー性やキャラクターの感情、情景を詰め込み完結させる。しかし、絵本は全体にストーリーがあり、情景や登場人物の感情の起伏を連続した絵で表現する必要がある。また、筆や色の使い方、印象に残るキャラクターデザインやポーズなど、自分が今まで考えなかった絵の描き方を考えるきっかけになった。また、読み聞かせ活動の際に子どもたちから「絵本をもっと作ってほしい」と言われたり、村の方々に絵本を褒めていただいたりして、完成まで頑張ってたかったと心から思えた。私はこの経験から、自分の特技を社会に役立てることができると知った。私は自分の絵を活かし、これからも子どもたちに様々な文化に楽しく触れるきっかけを与えられるような絵本を作っていきたい。

石原 さくら

私が今回の探究活動で学んだことは、子どもたちに自分の思いをうまく伝えるためには、こちらからの一方的な発信ではなく、子どもたちの気持ちに寄り添いながら伝える必要があるということだ。

私は一昨年に『曾爾の獅子舞』について知り、『曾爾の獅子舞』は300年前から伝統を継承してきたことにも感動した。しかし、現在では後継者の不足が原因で演目を減らさなければならなくなっている。そこで私たちは、『曾爾の獅子舞』をモチーフにした絵本を作成すれば、曾爾村について知らない子どもたちでも身近に『曾爾の獅子舞』を知ることができると考えた。そして私たちは『そむらゴンちゃん！』という絵本を作成した。

私は、今回の活動で絵本の文を考えると、読み聞かせを主に担当した。完成した絵本を持って、高校近隣の幼稚園で子どもたちに読み聞かせを行うにあたって、興味を持てるような話し方や説明の仕方を仲間と共に考えたり、絵本を繰り返し読んで音量や発音、抑揚の練習を行ったりした。しかし、実際に読み聞かせをしてみると、絵本があっても、子どもたちに『曾爾の獅子舞』を説明することがすごく難しいことに気がついた。特に課題に感じたのは、『道化獅子』に込められたメッセージや、そもそも獅子舞とは何なのかといった、絵本の中で子どもたちにとって注目して欲しいところがあまり明確になっていなかったという点である。子どもたちに楽しく盛り上がり聞いてもらうことはできたが、絵本が面白かったことよりも、高校生が読み聞かせにきたことに喜んでくれているような印象があった。活動を終えて、『曾爾の獅子舞』の魅力的な部分をもっと明確に分かりやすく伝えられる言葉をもう一度考え直してみたいと思った。また、今後絵本が幼稚園で子どもたちの手に取ってもらえるのか、時間をあけて伺ってみたいと思った。一方、子どもたちに読み聞かせをする際に、手を挙げて注目させてから話したことで、子どもたちの反応を見ながら、私たちの思いを伝えることができた。絵本の中に出てくる『おなら』の表現で子どもたちが笑った時に、私たちや、保育士さんも共に笑うことで、子どもたちの絵本に対する興味が深まったように感じた。絵本を使ってこのような場を共有できたことに、読み聞かせ活動の意義があったと考えている。

私は将来、保育士になりたいと考えている。今回の読み聞かせの活動を通して、子どもたちは自分が想定通りの反応を示してくれるとは限らず、子どもたちの反応に寄り添って臨機応変にこちらの対応も変えていくことが大切だと学んだ。手を挙げて注目させてから話しはじめるやり方には手応えがあったので、今後このような機会があればまた実践してみようと思う。子どもに寄り添って丁寧に行動することによって、子どもたちも、私自身も楽しんで生活できると思う。また、絵本の読み聞かせの場の良さにも気づくことができた。絵本があれば、自分の思いを子どもたちに伝えたり、興味を持ってもらったりする場をつくることできる。『そむらゴンちゃん！』のように、絵本の読み聞かせによって地域の伝統や交流を守っていく助けになると感じたので、絵本の活用についてさらに考えを深めていきたい。



榎本幼稚園での読み聞かせ(10月17日)



絵本贈呈式にて曾爾村の芝田村長と(10月25日)

実践活動時の動画や成果物等

動画URL	二次元コード	添付PDF あり

## 1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	グループ	ブロック	近畿
---------	---	---------	------	------	----

## 2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立曽爾青少年自然の家	修了日	2022/8/25	カリキュラムのタイプ	B
フィールドワークの内容					
実践活動期間	2024/7/1 ~ 2024/11/15				
活動のタイプ	発展的な活動				
これまでの活動について	2022年度のOR合宿で取り組んだ曽爾村の地域課題解決に向けた探究学習から、2023年度には村の郷土芸能『曽爾の獅子舞』の後継者不足への解決策として、獅子舞をもとにした獅子・天狗のキャラクターや絵本を作成し、吹き替えや簡単なアニメーションを作成し、村をPRする動画や紙芝居動画をYouTubeにアップした。				
協力者	主な協力者			協力内容	
	所属	伊賀見奉舞会	獅子舞の紹介や実演、絵本を書く際の協力		
	氏名	木治 正人			
	所属	曽爾村役場	曽爾村への絵本贈呈式、絵本寄贈の協力		
	氏名	高松 和弘			
	所属	一般社団法人そこのわGLOCAL	フィールドワーク先や講師の斡旋		
氏名	平島 義隆				
協力者総数	3名	協力団体数	3団体		

## 3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全 36 日

事前:準備・打合せ	31日	本番:メインの活動	3日	事後:ふりかえり・報告	2日
-----------	-----	-----------	----	-------------	----

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考
新聞	取材された	1回	10月25日の絵本贈呈式の様子を、奈良新聞、産経新聞に取材され、記事が掲載された。

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
7/1 ~ 7/31	①事前学習・打合せ等	奈良県立添上高等学校	絵本の制作。文の配置、ページの追加、説明・あとがきの構成など。
10/3 ~ 10/3	②実践活動本番	国立曽爾青少年自然の家	絵本の寄贈。本棚に設置し、誰でも手に取れるようにしていただいた。
10/17 ~ 10/17	②実践活動本番	樺本幼稚園	絵本の読み聞かせ活動。絵本の寄贈。内容について幼稚園の先生方へのアンケート実施。
10/25 ~ 10/25	②実践活動本番	曽爾村役場	絵本贈呈式。村へ10冊絵本寄贈。芝田村長に絵本読み聞かせの実演を見ていただいた。
11/14 ~ 11/15	③事後打合せ・報告会等	奈良県立添上高等学校	読み聞かせや絵本の寄贈を通していただいた反応の共有。それを踏まえた反省点の共有。

# もとむら ゴンちゃん！



え：もとむら あずみ

ぶん：いしはら さくら  
しかうみ しんり  
おかだ はる

奈良県立添上高等学校  
人文探究コース

# 絵本「そにむらゴンちゃん!」について

こんにちは。奈良県立添上高等学校人文探究コースです。私たちは、コース独自の取り組みとして「曽爾村探究プロジェクト」に取り組んできました。その中で、村が抱える地域課題として伝統芸能である獅子舞の後継者不足に着目しました。



曽爾村郷土芸能発表会の様子(2023年)



「曽爾村地域探究プロジェクト」より  
獅子舞を体験させていただいた際の様子(2022年)

この絵本は獅子舞の後継者問題を解消すべく、曽爾村の獅子舞を広く子どもたちに知ってもらえるように作成したものです。村で行われている獅子舞の演目をもとにキャラクターとストーリーを作成し、子どもたちが親しみやすいような絵と文を目指しました。この絵本を通して、子どもたちが曽爾村の獅子舞に興味を持ってもらえれば嬉しいです。最後になりましたが、プロジェクトでお世話になった曽爾村の皆さん、ありがとうございました。それでは、絵本をお楽しみください!!

そのむらにいっぴきのししまい  
ゴンちゃんがいきました。  
あるひ、ゴンちゃんは  
「かどふさじんじゃ」  
であそんでいました。





「まりころころ！」  
「はねてぴよんぴよん！」  
てんぐのテンくんが  
「お！こんなところでししまいがあそんどる！」  
といました。



「ねむくなくてきたゴン…」  
あそびつかれたゴンちゃんは  
「すーすー…」  
とねむりについてしまいました。



「おーい！ししまいやー！」  
テンくんは  
ひらりと、きのうえからまいおりて  
ゴンちゃんをおこそうとします。

むらのみんなは  
テンくんのまねをします。  
「なんだ！なんだ！？」  
「ししまいがねているぞ！」  
「ししまいやー！」



「はっ！おまえたちはなんだ！ガルル…」  
と、ゴンちゃんはきゆうに  
あぼれだしてしまっただのです。



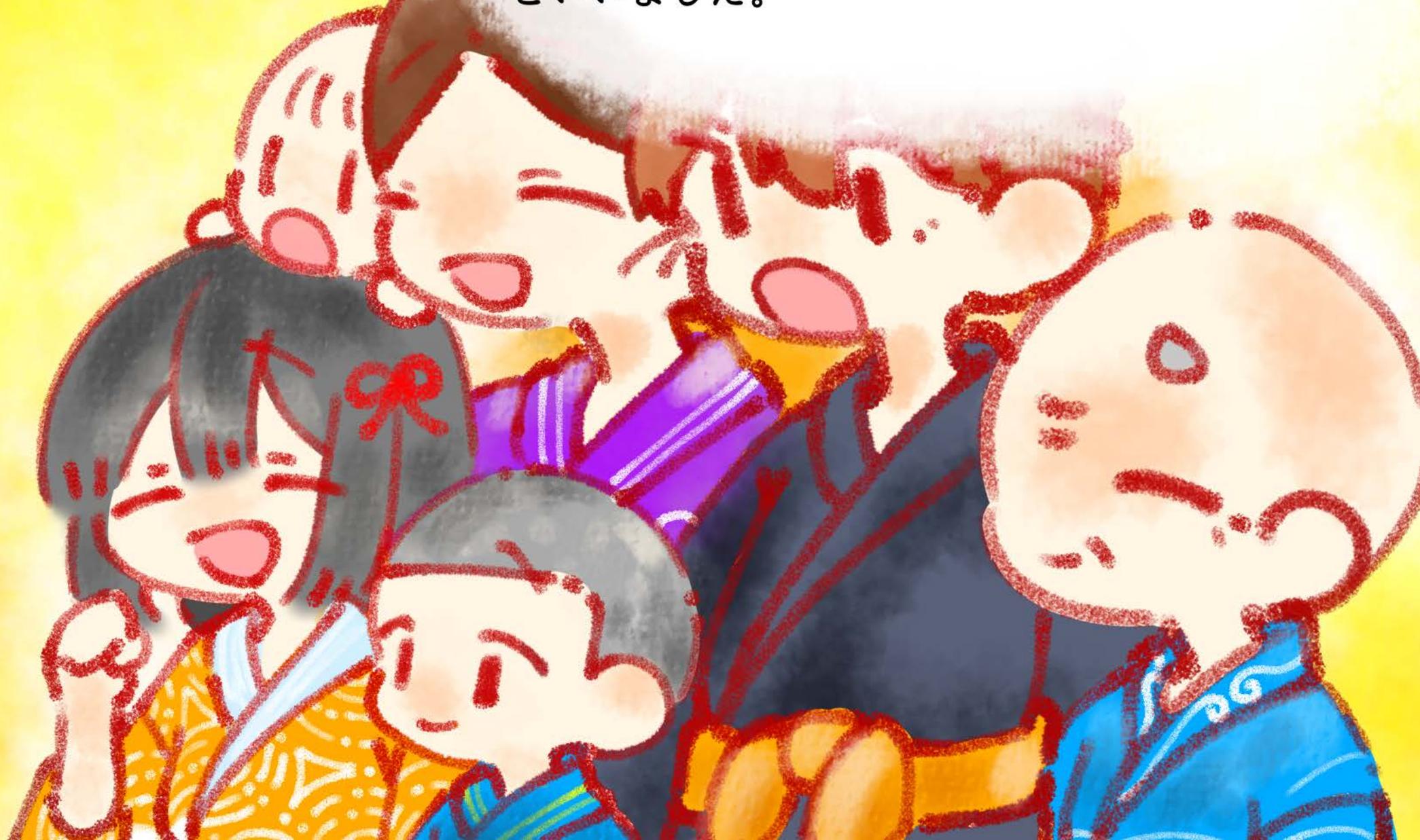
すると、テンくんが  
「ししまいやー！これでもくらえー！」  
まほうやおならをつかって  
ゴンちゃんのをかりを  
しずめました。





「はっ！おいらはゴンちゃん！  
わるいものじゃないゴン！  
だからみんなとあそびたいゴン！」  
といました。

むらのみんなは  
「なーんだ！」  
「そうだったんだ！」  
「それなら、ゴンちゃんいっしょにあそぼう」  
といました。



ゴンちゃんとは  
むらのみんなと  
なかよくあそびました。



ゴンちゃんが  
「まりであそぶゴン！」  
と、いうと、むらのみんなは  
「いいよー！」  
そして  
「まりころころ！」  
「はねてぴよんぴよん！」  
と、たのしくあそびましたとき。



めでたし。めでたし。



# 作者あとがき

私は、子どもたちに気に入ってもらえるように、可愛らしく温かみのある絵本を目指して絵を描きました。

自分の頭の中にあるイメージを絵にしていく中で、獅子舞と天狗を可愛く表現することが難しかったです。まず、主人公の獅子舞と天狗は子どもたちに怖いイメージを持たせてしまうと考え、ゆるキャラのように可愛らしくデフォルメしたキャラクターにしました。一方で、キャラクターの衣装は実物を細部まで再現するなどの工夫をしています。獅子舞の胸元は白地をベースに紺色の扇柄、背中部分は紺色をベースに白色の水玉模様といったように、曾爾の獅子舞の衣装を絵に取り入れました。天狗は顔と服の色味が同じなので、少し色に変化を出しました。また、曾爾村は秋の風景がとても綺麗なので、絵本も秋を感じられるように背景の山は赤色とオレンジ色で描きました。



絵本を曾爾村の方に見て頂いて、『よく出来ているね』と感想をいただいた時は達成感と感動があり、この絵本作りの経験を自分の将来につなげていきたいと思いました。

そして、この絵本が曾爾村の子どもたちをはじめ、多くの方に楽しく読んでいただきたいです。曾爾村の獅子舞を知らない人にも知ってもらうきっかけになればと思います。

絵本を手にとってくださり、ありがとうございました。

本村 愛澄



※この絵本は伊賀見奉舞会の「道化獅子」を元に制作しました。

# アンケート用紙

とてもわるい わるい ふつう よい とてもよい

理解度



伝わりやすさ

感想

The form consists of a large rectangular frame defined by solid lines. At the top right corner, there is a small five-petaled flower. At the bottom left corner, there is a larger five-petaled flower. At the bottom right corner, there is a cartoon dog's head and front paws, looking towards the left. The dog has large eyes and a small crown-like accessory on its head. The text '伝わりやすさ' is positioned at the top left of the frame, and '感想' is positioned on the left side of the frame.

## 読み聞かせ後アンケート結果

読み聞かせの教室にいてくださった3名の保育士さんに実施

### 理解度

とてもよい	… 1
よい	… 1
ふつう	…0
わるい	…0
とてもわるい	…0
未回答	… 1

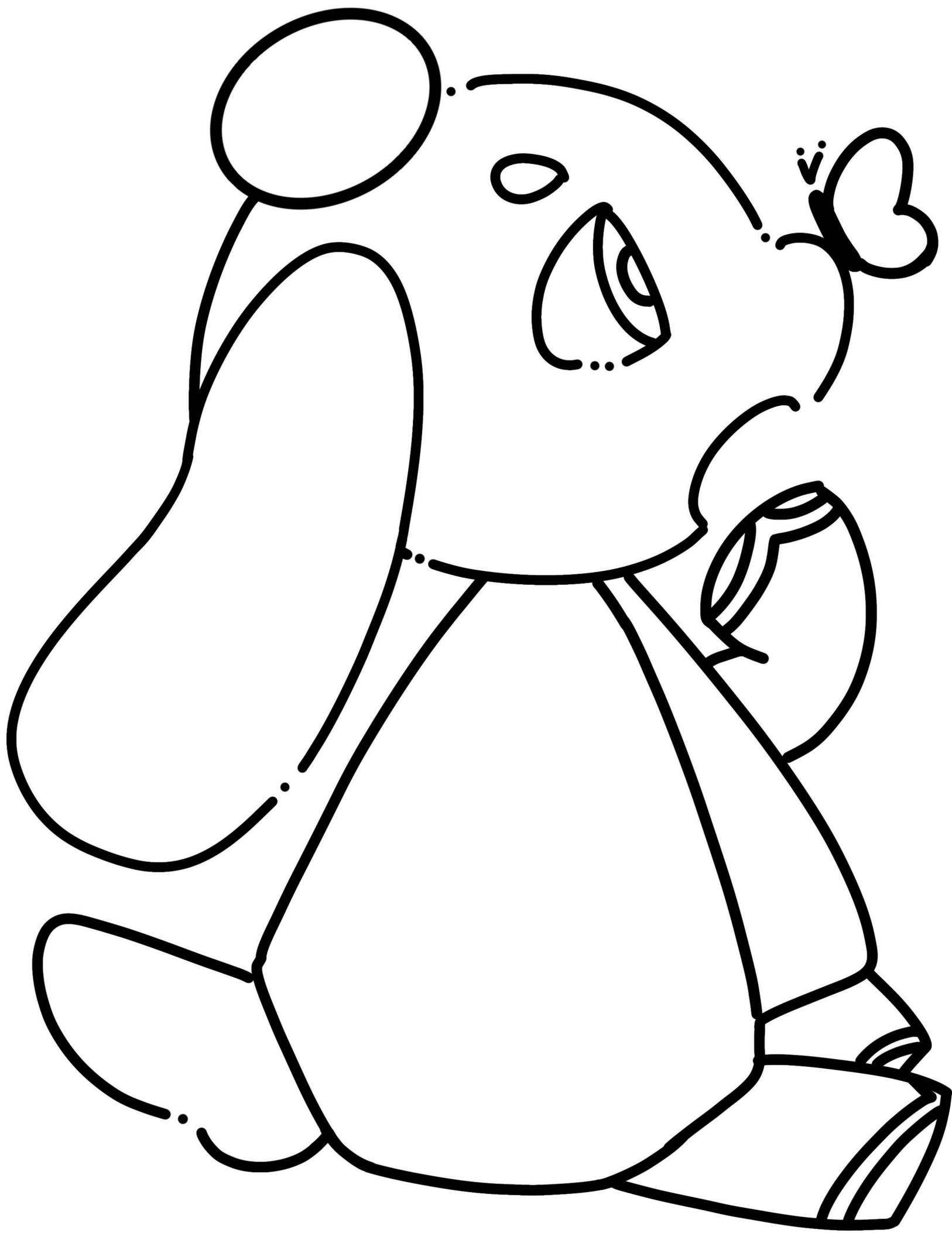
### 伝わりやすさ

- ・絵本が見えているか確認したり、見やすい持ち方をされたりしていました。子どもの声をひろったり、反応を見たり、子どもの様子や表情を見たりしながら落ち着いてよまれました。
- ・声の大きさも子どもがききやすいぐらいで、良かったと思います。
- ・お話を読み込んでおられて、園児たちにむかって読み進められていたので聞きやすかった。園児の「何で?」「誰がよ?」のつぶやきにも対応。理解につながった。

### 感想

- ・質問で「オナラのところ」とありました。一緒に生徒さんが共感してもらったことが嬉しかったです。
- ・子ども達に親しみやすい絵で分かりやすい文章で昔話を高校生が伝承してくださっている取り組みの良さを感じました。是非、つづけてください。

ゴンちゃん



ゴンちゃん



テンくん





テンくん